



1年
行方 魁人さん

※がよつしいっ
ばいに、おお
きくじぶんの
かおをかくと
ころをがんば
りました。

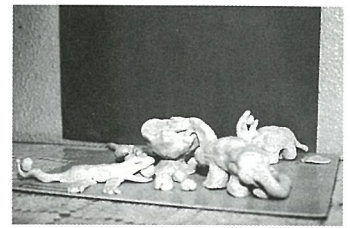


「どうぞよろしく」



2年
鈴木 崇文さん

※とかげやさそ
りたちが玉入
れをしている
ところをねん
土でつくりま
した。



「どうぶつたちの
うんどうかい」



3年
鈴木 健太さん

※とめるところ
や字の balan
スに気をつけ
て力いっぱい
書きました。

あつまれ みんなの 力作



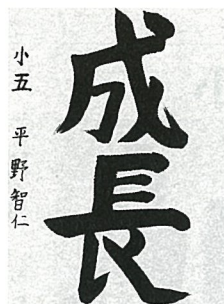
4年
鈴木 千裕さん

※とめ・はね・
はらいに気を
つけて書きま
した。



5年
平野 智仁さん

※とめやはらい
に気をつけて
書くのがむず
かしかったけ
ど力強く書き
ました。



6年
布施 泰盛さん

※「友」の右は
らいがむずか
しかったけれ
ど、自分では
よくできたと
思います。



ひかり歌壇



土屋 好 (虫生)
シベリヤの凍土に生きて三年半
夫しめじみ労苦を語る
敗戦という惨めさの中で捕われの身と
なった御夫君の労苦を思いやる

伊藤 定男 (尾垂)
友よりの届きし葉書に細々と
綴りし短歌余白残さず
友から届いた葉書には 短歌を添えて
びっしり書きこまれている

越川 福子 (宮内)
驚きて退きたる仔牛こわごわと
寄り来て覗くつぶらな瞳
驚いて退き下がった仔牛がまるい
眼をして寄って来た

越川 義則 (二又)
下萌の季節となりて我もまた
元氣な姿農に勤しむ
新芽のふき出る季節となり農に
頑張っている

安田 和子 (作間内)
習ひ初む紅梅描きて妹に出す
如何に思ふや言の葉を待つ
習ひ初めの絵手紙を出したが妹は何を
言ってくるか楽しみである

鈴木 益郎 (原方)
手術前準備に追われとまどひぬ
早く終われと願う毎日
開腹前の不安な気持ち

高梨 千ヨ (長塚)
稀にしか逢えぬ孫なり人混みの中に
求むる似たる面影
離れ住む孫への愛情

評者 鈴木 甲子幸
わが町の半世綴る小冊子
われの記述も掲載されをり